



P-Comニュース

第51号

2025年12月20日発行

東京歯科大学 教務部長・歯科医学教育開発センター主任 退任・就任のご挨拶

教務部長・歯科医学教育開発センター主任 退任のご挨拶



東京歯科大学

前教務部長・歯科医学教育開発センター主任
大学院歯学研究科長 教授 阿部 伸一

令和7年5月31日をもって教務部長・歯科医学教育開発センター主任を退任いたしました。ペイシェント・コミュニティ(P-Com)の皆様には、東京歯科大学の教育活動にご理解賜り、ありがとうございました。

P-Com の皆様には、第3学年のコミュニケーション学(医療面接)および第4学年の課題講義(コミュニケーション学)にご参加いただき、患者様目線で学生たちにご意見をいただきました。学生たちにとっては将来の病院での実習に備え、様々な学びがありました。

コミュニケーション学は学修目標を「歯科学生として診療参加型臨床実習で適切な患者様対応を行うために、コミュニケーションに関する知識・技能・態度を習得する。」としており、P-Com の皆様からのご意見は、我々教員からでは伝えることのできない具体的で率直な意見として、学生に届いておりました。P-Com の皆様のご参加によって、きわめて学修効果の高い講義・実習となっております。特に第4学年の学生は、第3学年の時にP-Com の皆様にご指摘いただいたことを思い、より真剣に取り組んでいたのが印象的でした。本当にありがとうございました。

最後になりますが、今後とも東京歯科大学における歯科医学教育開発センターの活動にご協力を賜りますようお願いし、退任の挨拶とさせていただきます。



教務部長就任のご挨拶



本年6月1日より教務部長を拝命いたしました。P-Com(ペイシエント・コミュニティー)会員の皆様におかれましては、平素より本学の学生教育に深いご理解と温かなご指導を賜り、心より御礼申し上げます。

本学では「学修者本位」を軸に、臨床力と人間力を兼ね備えた歯科医師の育成を進めてまいりました。なかでも、P-Comの皆様の実体験と率直なお声から学ぶコミュニケーション教育は、医療人に必須の倫理性とコミュニケーション力の涵養に直結する、本学を特徴づける教育の柱となっています。皆様が示してくださいとする患者視点は、学生が「伝える力」、「傾聴する力」、「共感する力」を磨くうえで、何ものにも代えがたい学びとなっています。P-Comの皆様からいただく示唆とご意見は、教育改善の起点でもあり、羅針盤となっています。

教務として、今後も皆様からの声をコミュニケーション教育に反映し、学生の成長を社会の期待につなげていきたいと思います。P-Comの皆様のお力添えに改めて感謝申し上げるとともに、今後とも変わらぬご指導とご支援をいただけすると幸いです。



東京歯科大学 教務部長
教授 松浦 信幸

2025年度 第4学年 課題講義（コミュニケーション学）12月12日/19日



まずははじめに、患者様を代表してP-Com会員様の山田幸子様より「患者様の立場から歯科医師に望むこと」と題した講義が行われ、続いて、立候補をした学生が教室の前に出て、P-Com会員様と同級生、指導医役の教員の前で医療面接ロールプレイを行いました。

ロールプレイ終了後、教室全体でフリーディスカッションを行い、最後に指導医役の教員よりフィードバック講義が行われました。

フリーディスカッションでは、P-Com会員様より励ましのお言葉や患者様目線での的確なアドバイスを頂きました。



また、同級生からも良かった点や改善点についての意見が出て、活発なディスカッションが行われました。学生たちは更にコミュニケーション技法に磨きをかけて、座学や基礎実習で学んだ知識と経験をもとに来年から始まる臨床実習の場で活躍してくれることと思います。



2025年度 第3学年 コミュニケーション学「医療面接」

10月9日 / 16日 / 23日 / 11月6日

まずははじめに、医療面接の概要を、スライドと映像を使って学びました。表情変化の練習や対人距離測定の実習を通して、患者様との信頼関係を築くためのコミュニケーションに必要なカウンセリング技法を身に着けました。そして、言語的コミュニケーションの重要性を学ぶため、2人ひと組で「肩もみ」を行いました。施術する側が一方的に肩もみを行った場合と、相手と会話をして要望を聞いた上で施術を行った場合の反応や感想の違いから、コミュニケーションがいかに大切であるかを体感しました。

次に、初診時の医療面接ロールプレイ実習が行われました。毎回異なるシナリオの中で、学生が歯科医師役と患者役をローテーションで演じて医療面接を行いました。10名程の班で行い、歯科医師役と患者役以外の班員は、評価者として医療面接を評価します。初回は資料を見ながら進めているにも関わらず、スムーズに行なうことが出来なかった医療面接が、最終回では、資料を見なくても患者役と上手くコミュニケーションをとりつつ適切に行なうことが出来ました。

見学会に参加されたP-Com会員様にも評価者として各班に入っていただき、患者様目線でのコメントをお話しいただきました。医療面接の良し悪しの評価だけではなく、コミュニケーションがいかに大切かということを伝えてくださるP-Com会員様の貴重なコメントに、学生達はとても真剣に耳を傾けていました。

P-Com会員様のご様子も、初回は心配そうに見守るような表情をされていたり、真剣にアドバイスしていただいている姿を多く見かけましたが、回を重ねる毎に、笑顔で学生を褒めていただけるシーンが多く学生達の成長を感じることが出来ました。



P-Com 会員のみなさまからのご感想

【10月9日】

◆最初なので緊張していましたが、「うなづき」や「共感」を上手に取り入れている学生さんが居て、患者に寄り添いたい気持ちが伝わってきました。

【10月16日】

◆声も大きくハキハキと明るい雰囲気で流れ良く進行していた。途中にまとめを入れて確認したりアイコンタクトも出来ていた。次からは患者の一番辛いことや今後どうしたいのかを聞いてくれるともっと良くなると思います。

【10月23日】

◆回数を重ねてすっかり力をつけています。高度な学力と社会性を身につけて立派な歯科医師になってゆくのだろうと期待でいっぱいになりました。

◆全ての学生さんが前向きに取り組んでいる姿勢がとても素敵でした。

【11月6日】

◆髪の毛で目が隠れていた学生さんが居て残念に思いました。

◆患者の話を聞きながら進めている様子が良いと感じました。口腔内等の専門用語が入ってしまうこともありましたが、「一緒に頑張りましょう」と優しい対応も見られました。

◆全体的にかなりレベルアップしていて安心できる歯医者さんの印象でした。

授業見学にご参加いただきました P-Com 会員のみなさま、本当にありがとうございました。
学生達から、授業をご見学いただいた感想が届きましたので、以下に掲載いたします。



学生から P-Com 会員のみなさまへ

第3学年
男子学生



ご参加いただき、誠にありがとうございました。私たちが理想とする医療面接と、P-Comの皆さまが感じる「良い医療面接」との違いを直接伺うことができ、大きな学びとなりました。信頼関係を築くためには治療技術だけでなく、仕草やコミュニケーションも重要であることを改めて実感しました。今回の学びを今後の臨床に必ず活かしていこうと思います。

第3学年
女子学生



P-Com の方々は、必要な情報を聞き出すことに必死になり、患者さんの気持ちへの寄り添いが足りていなかった私達に、患者さん視点での意見や改善点を教えてくださいました。多くのアドバイスのお陰で、最終回では患者さんに寄り添った医療面接を行うことができました。今後は今回の学びを活かし、安心感や信頼を与える歯科医師を目指していきます。

第3学年
女子学生



実際の対話を想定したロールプレイは想像以上に難しく、特に専門用語を避けた分かりやすい説明に苦戦しました。しかし、相手の反応を見ながら言葉を選ぶ大切さを学べたことは大きな収穫です。この授業で得た「相手目線」の意識を常に持ち、患者さんに安心感を与える歯科医師を目指して努力したいです。

P-Com 会員の皆様からの貴重なご意見を通して、医療面接における「患者さんの気持ちに寄り添う姿勢」の大切さを学びました。寄り添うとは、相手を理解しようとする姿勢であり、医療者として常に心に留めるべきものだと実感しました。患者さんと共に治療に向き合える歯科医師を目指して日々精進してまいります。

来年度の活動スケジュールにつきましては、またあらためてご案内いたします。
ご無理のない範囲でご参加いただけますと幸いです。